



太良町立多良小学校 学校便り 第 47 号

ゆたたり

学校教育目標 「元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う多良っ子の育成」

令和 3 年 3 月 23 日発行 文責 校長 副島 和久

感動の卒業式でした！



学校 HP もご覧ください

3月19日(金)、太良町立多良小学校の第 129 回卒業証書授与式を挙行いたしました。曇空でしたが、何とか、卒業生の見送りまで雨も降らずによかったと思います。

新型コロナウイルス感染防止対策のために、換気、マスク着用などなど、いろいろと制約がある中での式でしたが、工夫を凝らしながら、無事に執り行うことができました。当日は、卒業生 44 名のみんなも、見送る在校生のみんなも、お互いに自分たちの精一杯の思いを込めることができたのではないかと思います。



堂々と入場する卒業生



卒業証書授与



卒業生のお別れの言葉

今年度の卒業式では、太良町教育委員会を代表して、教育長 松尾 雅晴 様、来賓を代表して、太良町長 永淵 孝幸 様にご臨席いただき、お祝いの言葉をいただきました。

松尾教育長からは、大切な言葉として『感謝』という言葉についてのお話がありました。「これまでの成長過程において、お世話になったご家族や先生方を始め、多くの人達に、日々、感謝の気持ちをもち、毎日を、目標をもって、努力することが大切である」ということを話されました。

永淵町長からは、「ぜひ、自分で夢中になれることを見つける努力をしてみてください」というお話がありました。「夢中になるものを見つけることができれば、様々な人に日々感謝し、自分の個性を発揮し、最後までやり遂げることができる」ということでした。

卒業生に向けての言葉ではありましたが、これらのお話は、多良小学校の皆さんにとって大切なメッセージであると思いました。ぜひ、心に留めておいてほしいと思います。

卒業式の後には、各学級での時間を過ごし、最後は、在校生と先生方が見送る中、花道を通して、正門に向かいました。学級担任の田中 圭先生、横山 亜紀 先生の顔も晴れやかでした。



オンライン卒業式！！

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一つとして、本校の体育館のキャパシティを考えた上で、今年度は、1年生と2年生はそれぞれの教室で、オンラインによる卒業式参加としました。体育館のカメラで撮影した映像を、ZOOM を用いて配信し、各教室の電子黒板に投影して見ることができるようになりました。子どもたちは、電子黒板に映しだされた卒業式の様子を見ながら、在校生が歌う「さようなら」や多良小学校の校歌を大きな声で歌っていました。

太良町には各学校に1名ずつ ICT 支援員を配置してもらっています。これは全国的に見ても、とても先進的なことであり、大変、恵まれていることです。今回のオンライン卒業式の実現においても、事前の準備やリハーサルから、卒業式当日の撮影、配信などの全てを、多良小学校に配置してもらっている ICT 支援員が担ってくれました。ありがたいことです。

文部科学省が推し進めている GIGA スクール構想を受けて、太良町ではいち早く、一人一台端末の整備を進めてもらっています。このように先進的な機器の整備と、学校に一人ずつの ICT 支援員配置が相まって、これからの社会を生き抜く子どもたちのための情報活用能力育成に大きな力を発揮するものと思っています。（写真上 電子黒板の中の卒業式に集中 写真下 教室で高らかに校歌を歌う）



西日本新聞「ヤング川柳」に紹介されました！

3月13日付けと20日付けの西日本新聞に、多良小学校の子どもたちの作品が紹介されました。お題は「同じ」と「どろどろ」でした。

【次点】 同じだね その一言で笑顔さく 6年2組 中村 悠志 さん
【次点】 おこられて ぼくの心はドロドロさ 4年1組 家田 悠一 さん



今年度、紹介できる最後のヤング川柳です。来年度も皆さんのすてきな感性がキラリと光る句をどんどん応募してください。楽しみにしています。

第18回「斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール」入選！

斎藤茂吉を記念して行われている短歌コンクールに5年 富永 千晶 さんの作品が入選し、「桜実」（さくらご）という入選作品集に掲載されました。全国から応募された9510首の中から選ばれた200首とのこと。おめでとうございます。

雪とけて 一人残るは雪だるま 「こわさないで」と私に語る 5年2組 富永 千晶さん

学校便り第47号は、3月23日発行予定でしたが、昨日の脅迫メール等の対応のために本日の配付となりました。